

Pickup!① 夏の日差しをいっぱい浴びて

8月6・7日の2日間、厳原港の特設会場で「対馬厳原港まつり」が開催されました。祭りの初日は、子どもみこし・水鉄砲大会・子どもよさこい等が、2日目は、舟グロー大会・ビーチバレー等が行われ、猛暑の中大粒の汗を流しながら祭りを楽しみました。

また、祭りのメインイベントの朝鮮通信使行列には、301名（日本側251名、韓国側50名）が参加し、やぐら門からお祭り会場までの約1.8kmを練り歩きました。正使役に洪^{ホン}干^{ウシク}植氏が、宗対馬守役には比田勝市長が扮し国書を交換しました。



ご存じですか?

※正使役の洪干植氏は、1711年 第9次通信使の正使 洪^{ホン}致^{チチュン}中^{チュン}の8代目子孫

今年3月30日、朝鮮通信使の関連資料をユネスコ世界記憶遺産に登録するため、NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会と釜山文化財団による日韓共同申請書をユネスコ事務局に提出し、2017年の登録を目指しています。

【申請資料：外交文書や絵巻など日本側48件209点、韓国側63件124点】

「海」 っていいねえ!!

Pickup!②

8月20日、上対馬町の比田勝港埋め立て地で「おっどん祭り」が開催されました。今年の祭りのテーマは「海」。海上大相撲大会・海上ごぎ渡り・人間カーリング等、海上での競技に多くの子ども達や大人が参加。真夏の日差しが照りつける中、真っ黒に日焼けした子ども達が、比田勝の「海」を思う存分楽しみました。





9月1日の豪雨から1年 「自然災害に負けない地域づくりをめざして」



昨年9月1日の深夜、下対馬地方を集中豪雨が襲い、
 巖原・美津島を中心に甚大な被害をもたらしました。長
 崎地方気象台は午前2時7分に大雨洪水警報を発表しま
 したが、被害が最も大きかった瀬地区では、その少し前
 に巖原町南部を流れる瀬川が氾濫し、瞬く間に住家は浸
 水しました。そんな中、瀬地区では消防団を招集し、た
 だちに住民に避難を呼びかける放送がされ、人的被害を
 免れました。水道・電気・ガスなどのライフラインが止
 まり、建物や車が流されるほどの被害から、どう立ち直
 ったのか、関係者のみなさんに当時の状況についてお話を伺いました。

対馬市の被害状況

○人的被害…なし

○住宅被害

床上浸水	56棟	巖原管内	40棟
		美津島管内	15棟
		峰管内	1棟
床下浸水	18棟	巖原管内	7棟
		美津島管内	11棟

半壊	2棟
一部損壊	2棟

座談会

1年前の豪雨から学ぶ

警報より先に消防団が出動

岸川…ちょうどその日は、9月の敬老会の話し合いをしていました。役員会を終えた午後10時頃は、雨がしとしと降っている程度で気にもせず「いつもの雨かな」という思いで帰宅しました。雨が激しくなつたのは寝静まつた頃だと思えます。警報がでたのは2時過ぎですが、その前に消防団が動いてくれたおかげで人的被害を免れました。こんな息苦しいほどの大雨と災害は私の記憶の中で初めてのこと。スケールが違いました。



前豆酸瀬地区区長
岸川 達也さん

山田…警報が出る前に、私の妻の携帯に地区の方から、危険を告げる電話がありました。すぐ

に外を見ると、川が氾濫し、県道には水が流れ出ていましたのですぐに消防団を招集し、地区の住民にも、屋外放送で安全な所への避難を呼びかけました。それもまだ警報が出る前のことでした。



巖原第7分団 副分団長
山田 茂さん

内山…私は消防団として、河川付近の高齢者宅に救助に行きました。本人さんは寝入っていて、呼んでも反応がなく、身内方の許可をとり、石で窓ガラスを割り、中に入りました。水はあつという間に胸の辺りまで来て身の恐怖も覚えました。暗闇を口にくわえた懐中電気を頼りに探さし、もう一人の団員とお年寄りや背負って救出することが

できました。あと少し遅れていたら…。夜中でしたが、川沿いの住民に早い段階で避難を促したことが良い判断だったと思います。



前佐須瀬地区区長
内山 勝正さん

山田…雨が落ち着き、住民全員が無事を確認したところで、ひとまず消防団は解散し、夜明けを待ちました。

ライフラインは止まり、一夜にして生活が激変

岸川…床上・床下浸水をはじめ、水道・ガス・電気といったライフラインは止まる、何十台もの車・倉庫とありとあらゆるものが被害に遭っていました。ある倉庫は、跡形もなく流され、目の前に車が浮かんでいるのも見ました。電柱も倒れるほどの雨でしたから。農機具もほぼ全滅で。地区の役員が集まり、復旧の優先順位を決めてやっていこ

うと話していました。もう夢中でしたね。私の自宅にも住家の被害が大きかった6人の方が避難していました。

内山…私たち役員は、行政機関との連絡役に徹しました。まずは、作業道の確保からみんなを始めました。岸川さんと「とにかく一週間は住民総出で復旧しましょう。一か月を目処になんとか頑張りましょう」と呼びかけました。住民の不安やストレス・疲れが爆発したこともあり、今思えば大変だったな…。と思います。

そんな中、やはり、地区だけでは手一杯という状況になり、社協を通じてボランティアをお願いしました。

齊藤…全国の社協にはボランティアセンターがあり、これは災害に限らず、あらゆる分野でのボランティア人材の登録を募っています。今回は、9月5日・6日の土曜・日曜に合わせ、ケーブルテレビの文字放送とIP告知放送を使い、災害支援ボランティアを、対馬市民に限定して募集しました。県内では

初めての災害ボランティアセンターの立ち上げでしたが、2日間でのべ250人のボランティアが、参加してくださいました。瀬地区の皆さんには、事前に「何をしてほしいか」聞き取り、必要に応じたボランティアの班編制を行いました。



対馬市社会福祉協議会
斉藤 貴紀さん

ボランティアに助けられ、

励まされた復旧活動

岸川・自主的に駆けつけてくださる方も多く、漁師仲間が「何でんするよ!」と手伝ってくださったり、人は出せないが、トラックや、重機・チェーンソー（流木の処理に大活躍）を貸してくださる方もいて、本当に嬉しかったですね。

内山・社協の女性職員さんとボランティアの女性が、地区の主婦のみなさんのために、地区全

員分の夕食（からあげ・豚汁・サラダ）を作っていたとき、この公民館でお年寄りから順番に美味しく頂きました。これまで社協は何をやっているところなのか?と正直思っていました。この災害で地区と身近な距離になり、この先も心強いです。



たくさんのボランティアが集まりました

岸川・ボランティアもそうです。どこまでしてもらえらるんだろうか。と半信半疑なところが私にもありました。しかし、蓋を開けたらそうではありません。

した。側溝の土砂をもくもくと取り除いてくださる姿。自主的に連携し合って、効率的に作業をしてくださる姿、本当に熱心で私たちはボランティアに助けられました。いつか、もし、誰かを応援する機会があれば、私は迷いなくボランティア活動に参加します。

お陰様で、早い復旧につながりました。今振り返っても、人の力が一番だと感じます。1ヶ月で地区住民の生活は落ち着き、いつもどおり正月を迎えることができました。

災害に強い地域づくり



島おこし協働隊
杉田 洸平さん

杉田・私は、島おこし協働隊として、隣の内山地区に住んでいます。夏休みの寺子屋活動で瀬の子どもたちや、住民の方に可愛がっていただいていますので、日ごろの恩返しのできる気持ちで1週

間ボランティアに参加させていただきました。「一晩でこんなにも人の暮らしが変わるものだろうか」という現実を目の当たりにしました。感動したのは、やはり人の力。消防団が地区のことを把握していること、若さ・行動力・話し合いなどは、私の住んでいた大阪ではありえないことです。

ただ、瀬地区は若い人がいたから復旧が早かったと思います。が、そうではない地区もあるはず。島の若者がボランティアに入れる体制をしっかりと作る必要があると感じます。

山田・私も、今回のことで、若い団員の力を見直しました。以前にもまして、地形の変化や地区の危険箇所も意識するようにもなりましたね。地区を知り尽くした消防団の役割は大きいと思います。

内山・行政が良く動いて協力してくださったと思います。日ごろから、市役所をはじめ公共機関と、顔の見える関係を築き、どんなことも相談し合ったり、気軽に連絡を取り合うことが大

事だと気づきました。



対馬市総務課
黒岩 大作さん

黒岩：今回、皆さんのお話を伺い人的被害がなかったことは、地区の皆さんのいち早い判断と行動のおかげであったと改めて確認しました。私たちは市役所の中で災害対応に追われていますが、同時に現場では逼迫した事態となり、それを即座に判断し、対応していかなければならない状況であったことが分かります。

先日、厳原の久和地区でも50年に一度の大雨が振り、災害が心配されましたが人的被害等なく乗り切ることが出来ました。それも昨年の経験を活かし初動体制、消防団との連携、地区との連絡体制をとることが出来たおかげだと思っています。

また、昨年5月24日の長崎県総合防災訓練において、各組織の担当者がお互いに顔の見える

関係を築けたことも大きな成果であると思います。内山さんが話されたように地区と行政の顔の見える関係も大事であり、地区の意見をしっかりと繋ぐパイプ役とならなければなりません。過去の大地震では公的機関の力により多くの命も救われましたが、ご近所により救われた命もそれ以上に多かつたと言われています。『自らの地域は皆で守る』という意識を持って防災対策を行う必要があります。



ハザードマップを全世帯に配布します

土砂災害は「いつ」「どこで」発生するか分からない災害であることから、一瞬にして尊い命や、家などを奪い甚大な被害をもたらしますので、一人一人が土砂災害から身を守れるように備えておくことが大切です。

そのため、この土砂災害ハザードマップを活用して、事前にご自宅周辺の土砂災害の危険性がある場所や範囲及び避難経路や指定避難場所をあらかじめご確認ください。



一番大切なのは、一人一人が取り組む防災

自然災害は、人間の力ではくい止めることはできません。しかし、災害による被害は、私たちの日頃の備えによって減らすことが可能です。「自分でできること」「家族でできること」などについて考え、いつ起こるか分からない災害に備えておくことも大切です。

災害による被害をできるだけ少なくするためには、一人一人が自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や地方公共団体などが取り組む「公助」が重要だと言われています。

その中でも基本となるのは「自助」、一人一人が自分の身の安全を守ることです。特に災害が発生したときは、まず、自分が無事であることが最も重要です。「自助」に取り組むためには、まず、災害に備え、自分の家の安全対策をしておくとともに、家の外において地震や津波などに遭遇したときの、身の安全の守り方を知っておくことが必要です。

ライフラインが止まり、生き延びていくための水や食料の備えもしましょう。

問い合わせ：総務課 ☎0920(53)6111

Pickup!③ 新しい園舎で「元気はつらつ！」 ～比田勝こども園完成!!～



上対馬地区における子育て支援の中核施設として建設を進めてきた「比田勝こども園」が完成し、9月1日、新園舎に移転した比田勝幼稚園の園児が元気よく登園しました。

新園舎は、木造2階建て、延床面積998.5㎡。乳児室・保育室・遊戯室・調理室等を備える保育園・幼稚園を併せた定数115人の施設です。

また、対馬で初めて地中熱を利用した換気システム「ジオパワーシステム」を導入しています。冷暖房のように急激に温度を変化させるのではなく、換気をしながら温度をゆるやかに調整するため、子どもたちが過ごしやすい環境を作り出すとともに地球にもやさしいエコな設計になっています。

来年4月1日には比田勝幼稚園と比田勝保育所・泉保育所が一体となった「比田勝こども園」の開園を予定していますが、その間、比田勝幼稚園として利用します。

